

令和3年度 特色ある学校づくり推進事業報告書
『地域との連携 Project MASANORI を通して』

あま市立正則小学校

1 目的

本校は、校区に福島正則公の菩提寺である菊泉院があり、日頃から地域と深いつながりをもっています。保護者には卒業生も多く、地域の方に温かく見守られ、協力していただきながら学校教育を進めており、地域の力は、本校になくてはならないものになっています。そこで、さらに地域との連携を図り、地域の力を生かすことで、児童の自己肯定感を高め、児童をより健やかに育てていきたいと考えてきました。

また、変化の激しい現代社会を生き抜く力を児童に身につけさせることは、今日の教育の重要な課題であると考えます。状況に合わせた目標をもち、前向きに考え行動するには、集団を包み込む、豊かな心の醸成が必要であると考えています。

2 内容

(1) 地域との連携

ア Project MASANORI

福島正則公のことを少しでも知って卒業していつてもらいたいと始めたこの活動も5年目となり、児童の中に「福島正則公」が浸透してきました。本年度も6年生が狂言の発表会を行う計画をしていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防の観点から、中止とし、それに代わって、2年・4年・6年の児童に本物の狂言に触れてもらう機会としました。2年生では、狂言のお囃子について学習しました。実際に演奏を聴き、楽器や音の出し方についての説明を受け、「小鼓」の体験をしました。実物を見て、触って音を出す経験は、とても印象に残ったようでした。4年生と6年生では、狂言の歴史や「おそそ仁王」や「附子（ぶす）」と言った演目についての説明を「おそそ仁王」の作者である山川先生からレクチャーを受けました。プロの狂言師による「附子」を鑑賞した後、正座やあいさつの仕方、笑い方などの狂言師による正しい所作を体験しました。本物に触れることで子どもたちの関心が高まる貴重な機会になったと思います。また、6年生の『ふく王くんまんじゅう作り』では、講師に芳春軒店主を迎え、ふく王くんの顔のおまんじゅうを作りました。できたおまんじゅうは、家庭に持ち帰り、家族に感謝の気持ちを込めてプレゼントしました。



＜お囃子の鑑賞＞

イ 農業体験学習

継続事業として毎年、学校近くの畑でサツマイモの植え付けと収穫を地域の農業委員さんのご指導で体験させていただいています。本年度から、1～4年生での実施に変更しました。土に触れる経験が少なくなった今日、サツマイモの苗植えや収穫は、とてもよい体験になっています。さらに3年生は、サツマイモ以外に郷土の農作物として有名な越津ネギの植え付けと収穫を、農家の方を講師に招いて体験させていただきました。

ウ 安全マップ作り

毎年、5月に引き取り訓練を行い、下校時には、親子で通学路を歩いて危険箇所のチェックをしています。通学団会では、記入したマップを持ち寄り、危険箇所を確認

し、児童へ注意を促しています。それらをまとめ、校区の安全マップを作成、配布することで、安全な登下校への意識の向上を図っています。

(2) 豊かな心の醸成と健康づくり

ア 合唱指導

歌声の響く学校は、児童の心を豊かにすると考え、朝や帰りの会で歌を歌うことや朝礼の後全校合唱の練習をするなど、歌う機会を確保してきました。コロナ禍になってからは思うように実施できていませんが、「合唱発表会」や「卒業式」に向けて、堀田みどり先生を講師に迎え、合唱指導をお願いしました。

イ なわとび教室

昨年度に引き続き、「体幹を鍛え持久力を高める」ことや「根気よく取り組む心を育てる」ことを目標として、「なわとび教室」を行いました。昨年度は、親子で実施しましたが、感染状況を考え、今年度は児童のみで行いました。講師に技のコツを教えてもらい練習に励む姿やダブルダッチに楽しそうにチャレンジする姿が見られ、縄跳び週間へのモチベーションを高めることにつながりました。

(3) 指導力向上

ア 道徳の現職教育

平成30年度から校内で3年間「互いのよさを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成—議論につなげるための手立ての工夫—」と題して、道徳の授業研究を推進してきましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、実践する機会を確保できませんでした。そこで、4年目の今年度も引き続き研究することにしました。道徳の授業で考え議論する経験を重ねることで、互いのよさを認め合い、自らの道徳性を高めたいける児童を育ててきました。

イ プログラミング学習等 ICT関連の研修

「プログラミング学習」について、塚本先生を講師に迎え、教員研修を行いました。今年度は、全クラスで1時間ずつ授業をしていただき、研修会を行いました。また、全員がタブレット端末を使った研究授業を行いました。実際の授業を見学・実践することで、タブレット端末の活用方法がより具体的にイメージでき、指導力の向上が見られました。

ウ 辞書引き学習

今年度も中部大学の深谷先生を講師に迎え、2年生の児童を対象に「国語辞典による辞書引き学習」について、4～6年生の児童を対象に「漢字辞典による辞書引き学習」について授業をしていただきました。学習活動が制限される中、児童の言葉への意識や語彙力を高める有益な取組となっています。

3 評価と課題

本年度も、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、中止となった行事や取組がありましたが、日程を変更したり計画を縮小したりして実施したものも多くありました。これは、昨年度の経験を活かし、学年を分けて分割して行ったり、内容を変えたり、工夫をした結果だと考えます。

現在のようにコロナ禍が続く状況下では、例年通りの「Project MASANORI」を実施することは難しいと考えます。そこで、「Project MASANORI」の内容や、各学年の「生活科」や「総合的な学習」のカリキュラムを見直し、コロナ禍でも実施できる学校全体での取組や持続可能な取組を検討していく必要があると考えています。